



2022年4月14日

各 位

会社名 油研工業株式会社  
代表者名 取締役社長 永久秀治  
(コード番号 6393 東証スタンダード)  
問合せ先 常務取締役管理本部長  
萩野嘉夫  
(TEL 0467-77-2111)

### 新中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2022年4月からおよび2025年4月からの各3カ年2期分の中期経営計画並びに2030年までの長期ビジョンを新たに策定し、また付随してサステナビリティ方針を策定いたしましたので以下のとおりお知らせいたします。

#### 1. 長期ビジョン

油研グループは「油圧と共に生きる」を変わらぬ経営の理念とし、顧客に寄り添い価値を創造するグローバルサプライヤーとして広く産業の発展に寄与します。

具体的には既存製品における安定供給、均一品質、最高性能、環境適応製品を追求します。また持続可能な社会の実現に向けてESG経営に取り組みます。これら取り組みを通じ、「YUKEN」ブランドの世界的価値を向上させ、広く産業の発展に寄与します。

第1期(2022年4月～2025年3月) 投資と再編による基盤強化

第2期(2025年4月～2028年3月) 拡大による利益向上

第3期(2028年4月～2031年3月) 新たな投資による事業領域拡大

#### 2. 新中期経営計画の期間

第1期：2022年4月～2025年3月までの3カ年

第2期：2025年4月～2028年3月までの3カ年

#### 3. 新中期経営計画の方針

第1期(2022/4～2025/3)「真のグローバル企業を目指すための、投資と再編による基盤強化」

- ① 工場・製品の最先端化に向けた積極投資
- ② 量と品質を支えるサプライチェーンの強化
- ③ 全てを支える人材の多様化推進と組織の再編
- ④ ガバナンス向上に向けた本社機能の強化

第2期(2025/4～2028/3)「次なる飛躍に向けた拡大による利益向上」

- ① 高収益市場でのシェア拡大
- ② 再投資による最先端化製品拡大
- ③ 環境型新製品群(省エネ、環境負荷低減など)の拡大

#### 4. 財務目標

##### 【売上高、営業利益目標】

(百万円)

|          | 2022/3 月期<br>実績見込 | 2028/3 月期<br>目標 | 対 2022/3 月期<br>増減比 |
|----------|-------------------|-----------------|--------------------|
| 売上高      | 29,000            | 35,000          | +20%               |
| 営業利益     | 1,550             | 3,000           | +94%               |
| 売上高営業利益率 | 5.3%              | 8.6%            | +3.3 P             |

※実績見込は 22 年 2 月に発表した当社『第 3 四半期決算短信』における通期見込

##### 【設備投資総額】

第 1 期：60 億円 第 2 期：40 億円

- ① 工場の最先端化および生産能力強化のため第 1 期の設備投資を拡大
- ② 第 2 期の設備投資は設備更新、新製品対応が中心

##### 【開発投資総額】

第 1 期、第 2 期合計 25 億円。主な開発製品は以下のとおり。

- ① 製品の最先端化およびラインナップ拡充
- ② 省エネ型製品および環境に寄与する製品
- ③ カスタマイズ製品

#### 5. 株主還元方針

配当性向 30%以上とし、安定的かつ継続的な株主還元を実施します。

#### 6. サステナビリティ方針

持続可能な社会の実現と新たな価値創造に向けて油研グループのサステナビリティ方針を策定いたしました。中期経営計画においては E S G 経営と関連付けを行っています。

詳細につきましては、添付の「長期ビジョン&中期経営計画」および「サステナビリティ方針」をご参照下さい。

以上

# 長期ビジョン & 中期経営計画

## 目次

---

1. 長期ビジョン2030（2027達成目標）
2. 前中期経営計画（2019-2021）レビュー
3. YUKENグループを取り巻く外部環境
4. 次期中期経営計画（2022-2024）

## サマリー

私たち油研グループは現状を取り巻く環境とこれまでの反省を踏まえ、2030年までの中長期ビジョンを策定しました。2022~2030年を3年ごとの3ステップとし、ステップごとの到達目標を定めました。最終ステップは数値化せず目指すべき姿に留めています。

### Step 3 真のグローバル企業への進化

#### ★ 挑戦による事業の拡大

- ① 新たな市場（航空宇宙、水圧等）への挑戦
- ② 新たな事業（油圧ロボット等）への挑戦
- ③ 未開地への油圧技術浸透に挑戦

### Step 2 成長戦略の実践

#### ★ 拡大による利益率向上

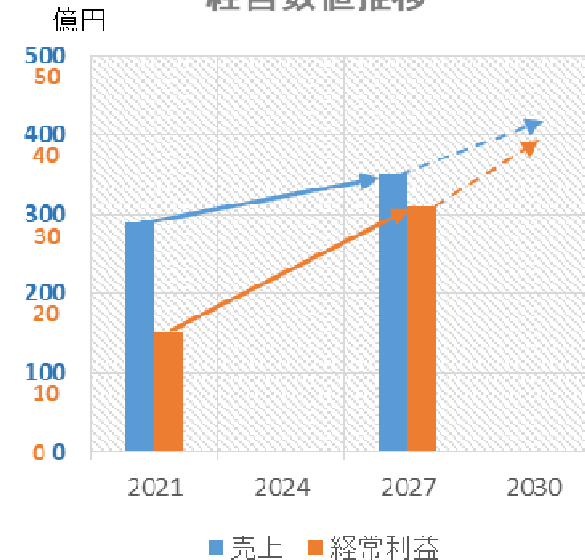
- ① 高収益市場でのシェア拡大
- ② 再投資による最先端化製品の拡大
- ③ 環境に配慮した製品群の拡大

### Step 1 ありたき姿への基盤作り

#### ★ 投資と再編による基盤作り

- ① 工場・製品の最先端化に向けた積極的な投資
- ② 品質・供給量を担保したサプライチェーン構築
- ③ 新たな基盤を支える本社機能の再編
- ④ 全てを支える人の多様化推進と組織再編

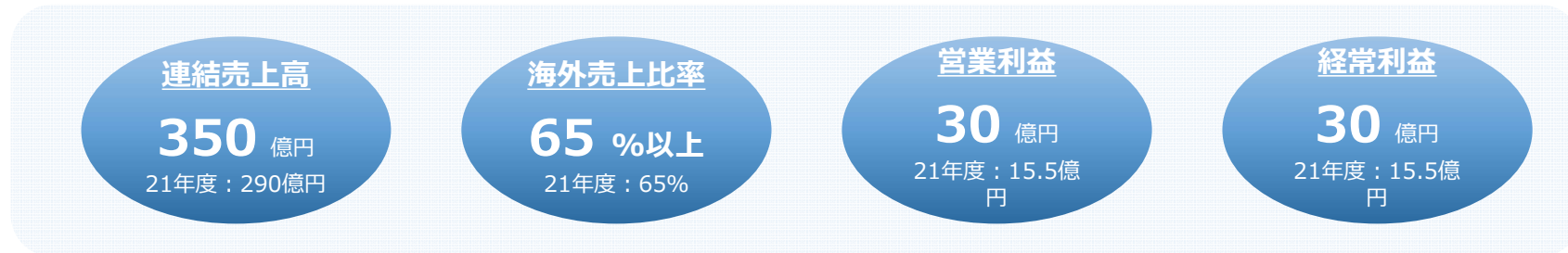
経営数値推移



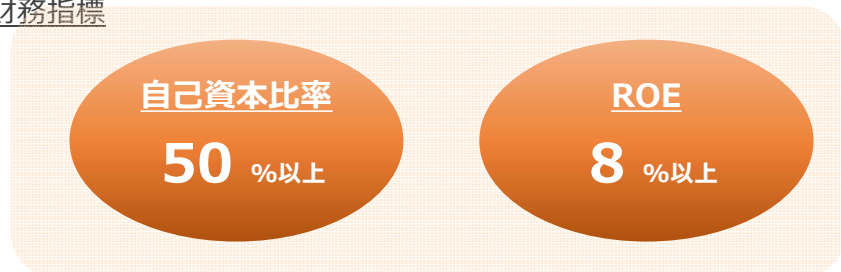
# 1. 長期ビジョン ~YUKEN GROUP VISION 2030~

## 2027達成目標

収支指標 ※2021年度見通しは22年2月に発表した当社『第3四半期決算短信』における通期見込



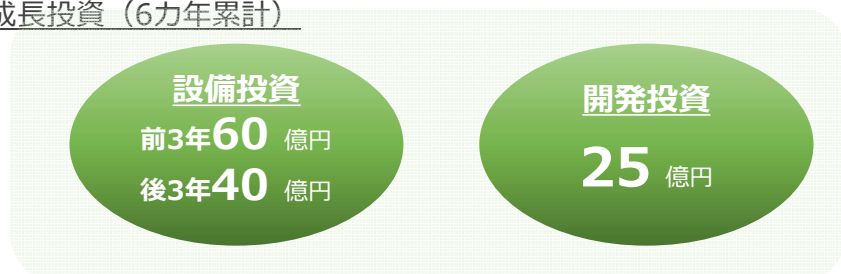
## 財務指標



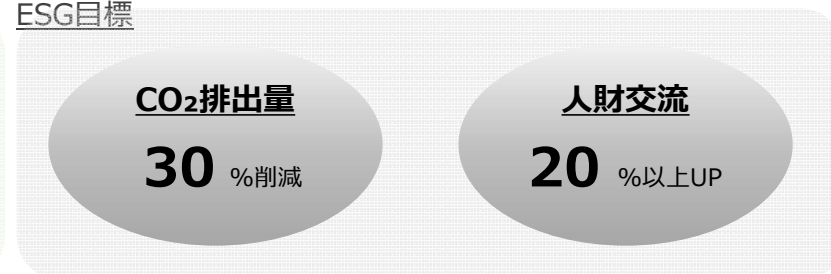
## 株主還元



## 成長投資 (6カ年累計)



## ESG目標



※ 本社累計：50億円  
子会社累計：50億円

※ 本社累計：20億円  
子会社累計：5億円

※各製造工場排出量

※本社・グループ各拠点間の  
人財交流

## 経営理念

### 『Living with Hydraulics』

~油圧と共に生きる~

油研グループは「油圧と共に生きる」を経営理念として、顧客のニーズに寄与する価値を創造・提供していくことを使命とし、グローバルサプライヤーとして広く産業の発展に貢献していく企業であり続ける

## ありたき姿

**これから100年、油圧専門メーカーとして  
品質と信頼で社会に貢献する真のグローバル企業**

### － 真のグローバル企業の定義－

1. 全世界に認知されるブランドカを保有する企業
2. グローバル製造業として最適な供給体制を保有する企業
3. ESGを意識した経営を積極的に行ない社会に貢献する企業
4. ステークホルダーから信頼される企業

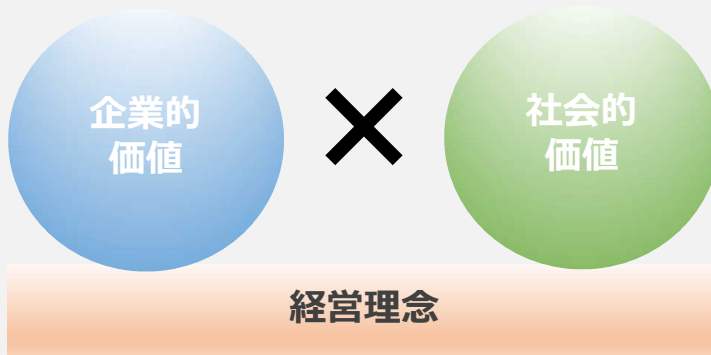
# 1. 長期ビジョン ~YUKEN GROUP VISION 2030~

目指す方向性

持続的な  
成長の実現

**真のグローバル企業**  
品質と信頼で社会に貢献する会社

ありたき姿の実現に向けた  
YUKENグループのサステナビリティ経営の実践  
(企業価値と社会価値のバランス経営)



油研グループの社会的価値創造の基本姿勢

“『おもい』をうみだす会社”

- ① 『重い』をうごかす  
油圧技術の普及により社会に貢献する会社
- ② 『想い』にこたえる  
顧客のニーズに技術で応える会社
- ③ 『思い』をかなえる  
社員の思いを実現する会社

## 2. 中期経営計画（2019-2021）のレビュー

### 業績見通し

当社グループは長期ビジョンの実現に向けて計画を推進してきましたが、新型コロナウイルス感染症を  
発端とする市場環境の変化に対応できず、目標未達という結果となりました  
中期経営計画期間内における課題を整理し、次期中期経営計画期間において解決に向けた戦略を  
グループ一丸となって実行していきます

### 中期経営計画（2019-2021）経営数値目標と推移

|        | 2021年度<br>達成目標 | 2019年度<br>実績 | 2020年度<br>実績 | 2021年度<br>見通し ※ 1 |
|--------|----------------|--------------|--------------|-------------------|
| 売上高    | 350億円          | 262億円        | 231億円        | 290億円             |
| 海外売上比率 | 60%以上          | 53.8%        | 57.3%        | 65.0%             |
| 経常利益   | 30億円           | 9.4億円        | 8.9億円        | 15.5億円            |
| ROE    | 8%以上           | 3.7%         | 3.8%         | 5.2% ※ 2          |
| 自己資本比率 | 40%以上          | 46.7%        | 48.1%        | 46.9% ※ 2         |
| 配当性向   | 30%以上          | 52.5%        | 50.4%        | 35.3%             |

※ 1 2021年度見通しは22年2月に発表した当社『第3四半期決算短信』をもとにした当社による予想値となります

※ 2 2021年度第3四半期時点での自己資本より求めた値となります



## 2. 中期経営計画（2019-2021）のレビュー

### 計画のレビュー

|          |   |  |
|----------|---|--|
| 収支<br>目標 | × | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による成長市場の停滞もあり<br/>売上高目標は未達</li><li>■ 中国市場の需要増に供給体制が追従できず需要の取りこぼしが発生</li></ul> |
| 株主<br>還元 | ○ | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 期間中の配当80円を維持</li><li>■ 配当性向は期間内全てにおいて目標を達成</li></ul>   |
| 海外<br>展開 | ○ | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 海外売上高比率は順調に成長し65%の見込</li><li>■ 北米地域への販社設立、ASEAN地域での代理店網の拡充</li></ul>                           |
| 経営<br>基盤 | ○ | <ul style="list-style-type: none"><li>■ コーポレートガバナンスコードへの対応</li><li>■ グループにおける統制機能の強化</li><li>■ 多様化するリスクへのマネジメント強化</li></ul>            |

### 3. YUKENグループを取り巻く環境・構造の変化と課題

#### 技術・品質・環境・生産性での大競争時代の到来

- ・ 環境の変化により発生する新たなニーズへの対応力を強化し競争優位性の確保が必要
- ・ 成長市場の旺盛な需要を取り込むためのグループ生産能力の向上が急務

#### 市場

##### 1. 市場構造の変化

- ・ 国内油圧市場のシェア増加への対応
- ・ 海外成長市場の確実な取り込み

##### 2. 競合他社の変化

- ・ 海外大手競合の代替製品の開発と市場投入
- ・ 新興国メーカーからの防衛のための付加価値の向上

#### 技術

##### 1. デジタル化・EV化の加速

- ・ デジタル化やIoTと連動する油圧技術の確立
- ・ 素材多様化に伴う高圧化への対応

##### 2. 省エネに対する取り組み

- ・ 顧客の要求に適合する省エネ製品の開発
- ・ 既存製品の省エネ化の促進

#### 社会

##### 1. 事業を通じた環境課題の解決

- ・ 脱炭素社会に向けた対応の強化
- ・ エネルギー転換への油圧技術での貢献

##### 2. 社会課題に対する取り組み

- ・ 社会課題に適合したビジネスモデルの変革
- ・ 多様な人材の活用

## 計画の位置付け

中期ビジョン

### Challenge the Next Stage ~レジリエントな経営体質を目指して~



#### Step 1 ありたき姿へ向けた基盤作り

「真のグローバル企業」として持続的な成長を実現するための基盤の再構築期間

- ① 新型コロナウイルスの影響により停滞していた課題の解消
- ② 当社の持つ強みを“より強く”磨き上げる

|      |     |                  |
|------|-----|------------------|
| 重点課題 | I   | レジリエントな経営体質への変革  |
|      | II  | ブランド力の強化         |
|      | III | ESG経営の深化         |
| 基本方針 | I   | 持続的成長を支える経営基盤の整備 |
|      | II  | グローバル展開の推進       |
|      | III | 収益力の強化           |
|      | IV  | ESG経営の実践         |

## 4. 中期経営計画（2022-2024）

### I

### 持続的成長を支える経営基盤の整備

#### 1 グローバルサプライチェーン構想の実現

成長  
ドライバー

- 5極生産拠点のシナジー最大化
- 最適生産拠点への移管による納期対応力の強化
- グループ内製化率の引き上げ

#### 4 本社統轄機能の強化

- グループガバナンスマネジメント機能の強化
- グループ資金再分配機能の強化
- グループ生産拠点に対する支援機能の強化

#### 2 開発・品質体制の強化

- 開発サイクル短縮に向けた開発機能の強化
- 開発投資の増強
- グローバル品質管理体制の強化

#### 5 デジタル化による業務改革の実現

- ITの活用による生産効率の改善
- 研究開発における効率化
- 業務プロセスの効率化・高度化

#### 3 人財の活用

- 多様性の確保に向けた社内環境の整備
- 機能・効率を重視した組織体制の見直し
- 責任・成果に応じた人事制度の検討と移行

#### 6 M&Aの活用による事業領域の拡大

- 得意領域の能力増強に資するM&Aの検討
- 製品群拡充に資するM&Aの検討
- 新たな事業分野への挑戦

#### 【用語の説明】

- ※グローバルサプライチェーン構想 . . . 5極生産拠点の設備・製造技術・生産能力を考慮し最適化したサプライチェーン構想
- ※5極生産拠点 . . . 本社綾瀬工場・本社袋田工場・台湾・中国（張家港）・インド（バンガロール）

### II

## グローバル展開の推進

### 1 海外標準機器事業の拡大

- 北米市場での標準機器の量的拡大
- 技術力を活かしたグローバルニッチ需要の獲得
- グローバル成型機市場でのシェアの拡大

### 2 販売網の拡充

- ASEAN地域への販社設立の検討
- 北米地域の代理店網の拡充
- 中東・アフリカ進出に向けた販路の構築

### 3 新たな業種への挑戦

- インド市場におけるモバイル市場への参入
- 代替エネルギー市場への参入
- 水圧事業参入の検討

### 4 グローバル製品の拡充

- 比例制御分野における3F製品の拡充と拡販
- 次期トレンド製品のマーケティングと開発
- Aシリーズピストンポンプの高効率化開発

成長  
ドライバー

### 5 サービス機能の強化

- 日本市場におけるサービス需要の更なる掘り起こし
- 中国市場におけるサービス網の拡充
- 韓国市場におけるサービス対応機種種の拡充

### 6 油研ブランドの浸透

- デジタルコンテンツを活用した広報活動の充実化
- 油圧技術の普及によるYUKENファンの獲得
- 営業技術力の強化による競合他社との差別化

#### 【用語の説明】

- ※標準機器 . . . 当社グループで生産するポンプ・バルブの総称
- ※グローバル製品 . . . グローバル仕様を保有し、地域・業種に関係なく販売が可能となる製品
- ※グローバル仕様 . . . 大手競合他社の製品と同等水準の仕様であること
- ※3F . . . Fit（取付互換） Form（外観） Function（性能）各々に他社互換性を有する製品

### Ⅲ

## 収益力の強化

### 1 国内標準機器事業の強化

- 提案型営業による顧客ニーズへの対応強化
- 営業技術力の強化による競合他社との差別化
- 個別開発の迅速化と開発投資の早期回収

### 4 生産能力の増強

- 生産能力増強に資する積極的な設備投資
- 自動化設備の導入による設備稼働率の向上
- 製品LT短縮に向けた生産方式の見直し

### 2 中核製品の強化

成長  
ドライバー

- 1/8口径電磁切換弁次世代機の開発
- 1/8口径電磁切換弁グループ生産能力の増強
- 納期対応力強化による顧客満足度の向上

### 5 事業の選択と集中

- 収益に応じたグループ内重複事業の統合
- 不採算事業からの撤退の検討
- 地域の市場価格に適した戦略的な価格設定

### 3 グローバル調達の展開

成長  
ドライバー

- インド現法リソースの最大活用
- グローバル調達の推進による調達リスクの低減
- グローバルサプライチェーン構想の深化

### 6 ROIC経営の導入の検討

- ROICツリーへの展開とKPIの設定検証
- ROIC経営の効果検証
- 棚卸資産圧縮によるキャッシュフローの改善検証

## 4. 中期経営計画（2022-2024）

### IV

### ESG経営の実践

- 『油圧と共に生きる』を基本的な考え方とし、経営の信条を実践することで企業価値・商品価値の向上と社会貢献を同時に図る
- サステナビリティ推進委員会を新たに設置し、各課題への取り組みを深化させる

### E

### モノづくりと事業活動で地球環境を護る



#### 1. 消費を減らす

- 生産設備の省エネルギー化

- 省エネ製品の拡販

- 梱包副資材の見直し

#### 2. 廃棄物を減らす

- 再生資源のリサイクル

- 消耗品の長寿命化

- 不良率の低減

#### 3. 環境負荷物質を減らす

- 事務所内特定フロンの撤廃

- 製品塗装レス化の推進

- 製品ライフサイクルへの配慮

### S

### 人財が集まる魅力的な企業を目指す



#### 1. ダイバーシティの推進

- 人財のグローバル化の推進

- 働き方の多様化推進

- 健康促進活動の推進

#### 2. 人財の育成および体制の強化

- 階層別教育制度の充実

- 人事評価制度の見直し

- グローバル研修制度の充実

#### 3. 地域・社会・世界への貢献

- 地域貢献活動の推進

- 災害対策の強化

- 油圧技術普及活動の推進

### G

### 透明性・蓋然性・責任性を高めステークホルダーからの高い信頼性を獲得する



#### 1. 管理監督機能の強化

- リスク管理体制の強化

- 内部監査機能の強化

- グループ管理体制の強化

#### 2. 連携力の強化

- 部門の再編

- 重複機能の集約

- 海外グループ会社との連携強化

V

成長ドライバーの推進

### インド現法とのシナジー最大化

成長著しいインド市場の取り込みとインド現法リソースの最大限活用

#### 1 資金・技術・人的サポートの強化

- ① 現地駐在者要員の増強による連携の強化
- ② 自動化技術を中心とした技術サポート
- ③ 成長を促進する設備投資への財務サポート

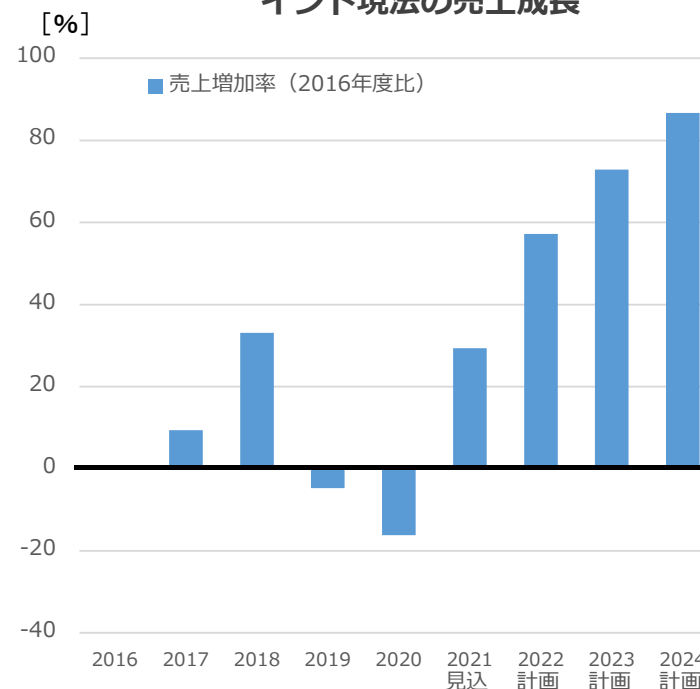
#### 2 グループ供給拠点としての役割の強化

- ① 鋳物工場のグループ供給能力の引き上げ
- ② 中核部品のグループ供給能力の引き上げ
- ③ 製品移管による本社生産能力の負担軽減
- ④ ギアポンプの開発と市場投入

#### 3 成長市場におけるシェアの向上

- ① モバイル市場の開拓
- ② 工作機市場のシェア向上
- ③ 鉄鋼関連市場への高機能製品の拡販

インド現法の売上成長



※売上増加率（縦棒）は2016年度売上を基準とした増減率



V

### 成長ドライバーの推進

#### グループ連携強化によるシナジー発揮

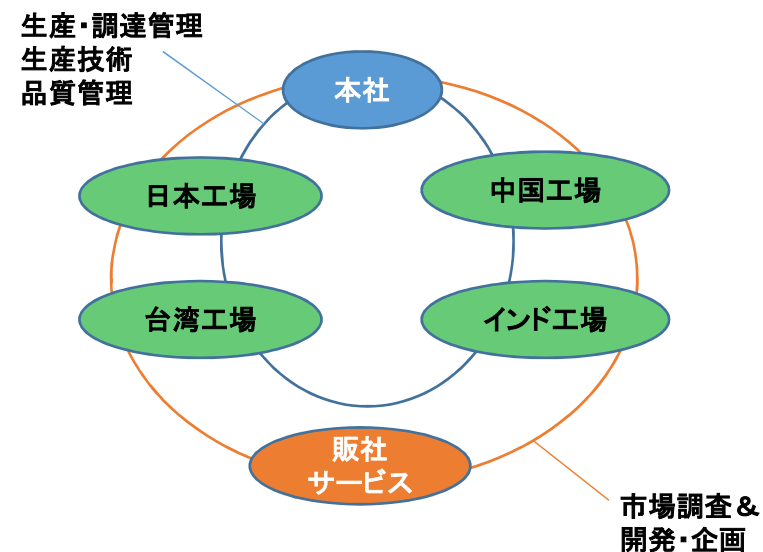
適材適所、相互供給、情報連携、グループ統制により効果的行動の迅速化

##### 1 生産拠点連携によるシナジー

- ① 本社をコントロールタワーとする生産管理
- ② 地の利を活かした生産体制
- ③ 拠点間相互供給による納期・コストの最適化

##### 2 グループ連携によるシナジー

- ① 販社も含めた情報統制による生産計画の最適化
- ② 組織的市場調査による開発計画の最適化
- ③ 組織的販売戦略による市場浸透の深化



V

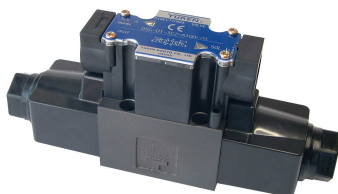
成長ドライバーの推進

### 次世代型グローバル製品の開発

近未来の世界要求に合致

1

#### DSG-01 Series 1/8口径電磁切換弁



日本、台湾、インドの3拠点で生産。  
2024年度の市場投入を目指す。

- ① 納期対応力を“強み”とした世界シェア（世界販売台数）の増加
- ② 原産地格差の無い業界最高水準のグローバル機種開発と市場投入

2

#### A Series 可変ピストンポンプ



高圧、高効率を兼ね備えた、世界の主流ポンプを目指す。  
2024年度までに計画を立案し、早期市場投入を目指す。

- ① 母機への適合性と環境対応に配慮した高効率ピストンポンプの開発
- ② 生産から廃却まで配慮の行き届いた製品を追求

### VI

### 配当方針

配当性向目安30%以上

安定的かつ継続的な株主還元の実施

- ① 当社は2022年3月期～2024年3月期においては、親会社の所有者に帰属する純利益に対し、配当性向30%以上を目安に安定的かつ継続的に株主還元を行う。
- ② 本期間においては、グループ工場も含めた最先端化、均質化に資する投資を積極的に実施する。
- ③ 当社は油圧専門トップメーカーとしての自負を持ち、事業基盤の強化、収益力の強化向上、事業の拡大と成長を続けながら、企業価値の向上に努め、株主の皆様へ安定的な利益還元を目指す。

【ご参考】

| 直近の配当状況   |          |          |            |
|-----------|----------|----------|------------|
|           | 2019年度実績 | 2020年度実績 | 2021年度見通し※ |
| 配当額 [円/株] | 80       | 80       | 80         |
| 配当性向      | 52.5%    | 50.4%    | 35.3%      |

※2021年度見通しは22年2月に発表した当社『第3四半期決算短信』をもとにした当社による予想値

油研グループは70周年にむけ成長を続けていきます



—注意事項—

本資料に掲載されている、油研工業株式会社の業績予想など、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する独自の見通しであります。

これらは、現在入手可能な情報から得た情報をもとに当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。

そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は、記述されている業績予想および戦略と大きく異なる可能性があることをご了承ください。

内容の正確さについては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しましては、当社は一切の責任を負うものではありませんのでご了承ください。

YUKENグループ  
**サステナビリティ方針**

2022年3月25日

# 1. サステナビリティ方針

## 基本方針

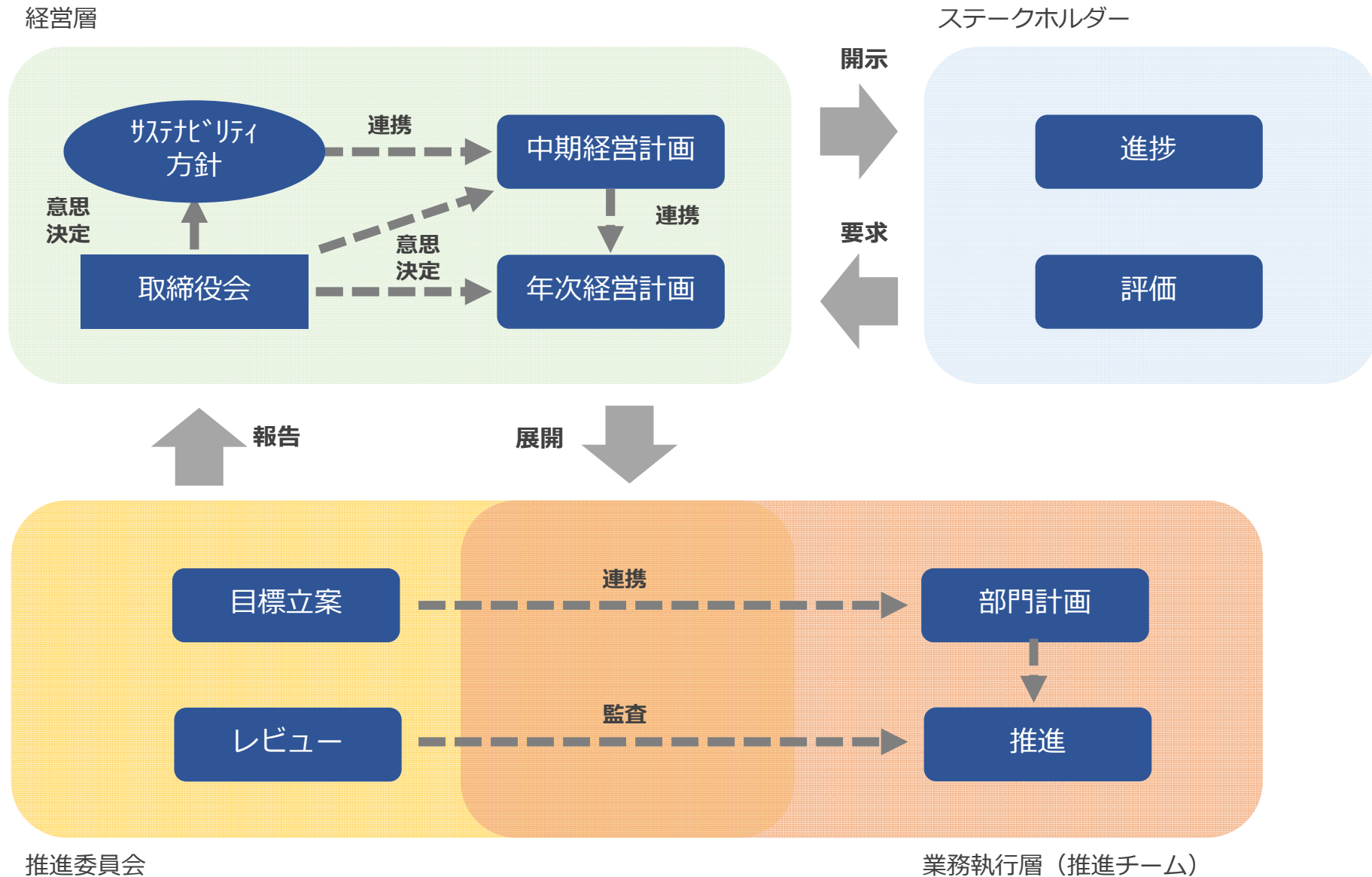
私達、油研グループは「油圧と共に生きる」を基本的な考えとし、「経営の信条」を実践することで企業価値・商品価値と社会的価値の向上を目指す。

- 1 長期的ビジョンを掲げ、社会的問題の解決に取り組み続ける
- 2 グループシナジーを最大限活用し、真のグローバル企業として成長を追求する
- 3 ステークホルダーからの高い信頼を継続する

### －YUKENグループサステナビリティの特徴－

1. サステナビリティ推進委員会を編成し、「社会的課題」と「ステークホルダーの期待」の双方より課題を抽出し、事業目標・経営戦略と連動した目標を起案する。
2. 取締役会は推進委員会から答申された課題と目標を審議し、中期経営計画・年次経営計画へと展開する。
3. 推進チームはサステナビリティ課題を実行し、定期的に推進委員会に進捗を報告する。
4. 推進委員会は課題の達成状況を評価し、必要に応じ、推進チームに計画の変更を指示する。
5. 評価結果はステークホルダーへ適宜開示し透明性・蓋然性・責任性を高めていく。

## 2. サステナビリティマネジメント図



### 3. サステナビリティ目標：2022-2024

#### E

#### モノづくりと事業活動で地球環境を護る

##### 課題

製品による環境貢献

**製品固有のエネルギー効率の向上**

##### 目指す将来の姿

エネルギーを消費する主要  
製品で世界最高レベルの  
省エネ性能実現



##### 中期経営計画内に解決する課題

- 1 電動機または電磁弁に関する省エネ製品の開発完了
- 2 大流量・低圧損製品の開発を継続

##### 課題

製品による環境貢献

**環境保全・省資源に資する製品の拡販**

##### 目指す将来の姿

世界的に環境に寄与する企業として  
認知される



##### 中期経営計画内に解決する課題

- 1 資源リサイクルに関連する製品（環境機械）の  
販売網拡充
- 2 海外販売に適した製品の開発
- 3 生分解性作動油、水圧など環境にやさしい  
油圧代替機能の研究



### 3. サステナビリティ目標 : 2022-2024

#### E

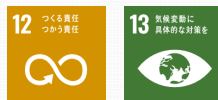
#### モノづくりと事業活動で地球環境を護る

##### 課題

事業活動による環境負荷低減  
温室効果ガス低減

##### 目指す将来の姿

世界的に環境に寄与する企業として  
認知される  
実質CO<sub>2</sub>排出“0”を実現



##### 中期経営計画内に解決する課題

- 1 電気使用量の削減
- 2 工程内歩留まりの向上
- 3 自然エネルギー利用率の向上

##### 課題

事業活動による環境負荷低減  
化学物質の管理徹底

##### 目指す将来の姿

世界的に環境に寄与する企業として  
認知される



##### 中期経営計画内に解決する課題

- 1 生産ラインで消費される化学物質の特定と安全性の確認
- 2 製品に使用される化学物質の特定と安全性の確認
- 3 特に毒性の高い化学物質の使用“0”

### 3. サステナビリティ目標：2022-2024

#### E

#### モノづくりと事業活動で地球環境を護る

##### 課題

事業活動による環境負荷低減  
事業におけるエネルギー使用低減

##### 目指す将来の姿

経済性を考慮した上で最大限  
自然エネルギーを活用する  
実質CO<sub>2</sub>排出“0”を実現



##### 中期経営計画内に解決する課題

- 1 使用電力量の5%を自然エネルギーに代替
- 2 各製造拠点のCO<sub>2</sub>排出量10%低減

##### 課題

事業活動による環境負荷低減  
環境負荷物質の排出削減

##### 目指す将来の姿

世界的に環境に寄与する  
企業として認知される



##### 中期経営計画内に解決する課題

- 1 CE宣言製品の拡充（主要比例弁）
- 2 TFCDとの関連付けと対応の開始

### 3. サステナビリティ目標：2022-2024

**S**

人財が集まる魅力的な企業を目指す

課題

多様な働き方の推進  
人財を集める魅力

目指す将来の姿

人財の多様化を進め、多角的な意見を  
活かす企業となる



中期経営計画内に解決する課題

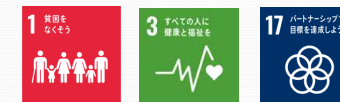
- 1 本社・各拠点間人財交流の拡大  
目標：20%以上UP
- 2 経営層と従業員とのコミュニケーションの場の拡充
- 3 女性や障害者が活躍できる職場作りの推進

課題

人を大切に  
人財移動加速による労働力不足の解消

目指す将来の姿

適材適所での生産体制確立



中期経営計画内に解決する課題

- 1 無人生産体制の模索
- 2 労働力が豊富な地域への生産移管

### 3. サステナビリティ目標：2022-2024

**S**

人財が集まる魅力的な企業を目指す

課題

社会貢献

**油圧技術の普及**

目指す将来の姿

油圧と共に生きる企業の継続



中期経営計画内に解決する課題

- 1 工業会での中核的役割の継続
- 2 油圧講習の積極的な開催
- 3 研究者への支援

課題

地域社会との係わり

**地域貢献活動の推進**

目指す将来の姿

地域と融和した企業



中期経営計画内に解決する課題

- 1 計画的・継続的な地域貢献活動の実施
- 2 地域住民との対話、交流
- 3 災害への備え

### 3. サステナビリティ目標：2022-2024

**S**

人財が集まる魅力的な企業を目指す

課題

人を大切に  
人財を育てる体制

目指す将来の姿

従業員が切磋琢磨する会社



中期経営計画内に解決する課題

- 1 油研に相応しい階層教育の実施
- 2 次期管理職、経営層と期待される者への選抜教育体制の構築
- 3 人財と処遇を合致させる人事評価の検討開始

課題

人を大切に  
健康を維持する体制

目指す将来の姿

従業員全員が常に生き生きと健康の内に  
退職を迎える会社



中期経営計画内に解決する課題

- 1 ストレスフリーを目指した職場環境の見直し
- 2 時間外労働の監視と抑制
- 3 健康増進活動への援助

### 3. サステナビリティ目標：2022-2024

**S**

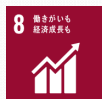
人財が集まる魅力的な企業を目指す

課題

人を大切に  
**職場の安全衛生**

目指す将来の姿

労働災害“0”が当たり前の職場



中期経営計画内に解決する課題

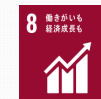
- 1 全製造拠点への労働安全衛生管理者の配置
- 2 定期的な工場リスクアセスメントの実施
- 3 労働安全衛生国際規格（ISO45001）取得に向けた活動開始

課題

人を大切に  
**人権の尊重**

目指す将来の姿

あらゆる面で人権が尊重された会社



中期経営計画内に解決する課題

- 1 全拠点における人権リスク分析の実施と是正
- 2 ハラスメント防止への取組

### 3. サステナビリティ目標：2022-2024

**S**

人財が集まる魅力的な企業を目指す

課題

安心安全な社会へ  
**安全なもの（製品）づくり**

目指す将来の姿

**製品のリスク検証を完全実施**



中期経営計画内に解決する課題

- 1 開発製品におけるリスク検証の確実な実施
- 2 安全に関わる既存製品のリスク検証の実施

### 3. サステナビリティ目標：2022-2024

**G**

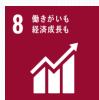
透明性・蓋然性・責任性を高めステークホルダーからの高い信頼性を獲得する

課題

グローバル企業への変換  
真のグローバル企業への変換に向けた体制

目指す将来の姿

人員の流動性を高め、適材適所による  
全ての従業員が活躍する会社



中期経営計画内に解決する課題

- 1 本社主導のグローバル化に応じた組織の構築
- 2 需要の変化に応じた適切な人員配置
- 3 拠点間・部門間の連携強化を可能とする業務仕分けの実施

課題

グローバル企業への変換  
生産国ごとに認識された品質・価格格差の是正

目指す将来の姿

主要な製品全てを世界共通製品とする



中期経営計画内に解決する課題

- 1 本社主導のグローバル品質管理体制の導入
- 2 DSG-01シリーズ電磁弁の全世界共通化の実現
  - ① デザイン・品質管理・検査・梱包ドキュメントの共通化
  - ② 部品の完全一致を担保するサプライチェーンの確立
  - ③ 製造拠点毎の価格格差の是正による利潤の確保



### 3. サステナビリティ目標 : 2022-2024

**G**

透明性・蓋然性・責任性を高めステークホルダーからの高い信頼性を獲得する

課題

グローバル企業への変換  
熟練者不足による品質（管理）低下の歯止め

目指す将来の姿

主要な製品全てが均質であることを  
証明できる体制を整える



中期経営計画内に解決する課題

- 1 品質に関わる手順と管理基準の明確化
- 2 加工工程、組立工程、検査工程の自動化による品質安定化の実現
- 3 技術の継承を目的とした教育プログラムの導入

課題

グローバル企業への変換  
確固なサプライチェーンの構築

目指す将来の姿

サプライヤと友好的関係を維持し  
不測の事態にも動じない会社



中期経営計画内に解決する課題

- 1 グローバルサプライチェーン寸断に対応したBCP強化
- 2 適切な安全在庫の確保
- 3 主要サプライヤとのパートナーシップに基づく関係強化

### 3. サステナビリティ目標：2022-2024

**G**

透明性・蓋然性・責任性を高めステークホルダーからの高い信頼性を獲得する

課題

企業価値の向上  
誠実で公正な事業活動

目指す将来の姿

コンプライアンス違反の無い企業の継続



中期経営計画内に解決する課題

- 1 全グループ従業員への行動規範の啓蒙
- 2 コンプライアンス教育
- 3 内部通報制度を利用した課題の早期把握と是正
- 4 反社会的勢力との関係遮断

課題

企業価値の向上  
情報セキュリティ、個人情報保護の維持

目指す将来の姿

情報セキュリティに配慮した企業



中期経営計画内に解決する課題

- 1 世界各国で強化される個人情報保護法への対応強化
- 2 サイバー攻撃に対する対応強化

### 3. サステナビリティ目標：2022-2024

**G**

透明性・蓋然性・責任性を高めステークホルダーからの高い信頼性を獲得する

課題

企業価値の向上  
コーポレートガバナンスの維持向上

目指す将来の姿

成長が期待されることにより  
ステークホルダーから常に高い評価を受ける企業



中期経営計画内に解決する課題

- 1 中長期的な成長戦略を示した透明性の高い経営
- 2 中期・単年度経営計画の達成